

特集：国際学会参加報告

国際会議参加報告—ゴードン会議 “Carbon assimilation: genome to biome”

辻 敬典（筑波大学 生命環境科学研究科博士後期課程 3 年）

8月17日から22日にかけて、アメリカのニューイングランド大学で開催された、ゴードン会議 “Carbon assimilation: genome to biome” に参加して来ました。今回の学会では、初めて英語での口頭発表を経験しました。しかも、指導教官が都合により参加できなかったため、単独での参加です。独りで海外に行くことが初めてでもあるため、出発前はとても不安でした。

私が参加した Carbon assimilation（光合成炭素同化）の部門は、招待演者による講演、ポスター発表、そして若手研究者によるショートトークの3つのセッションから成っており、参加者は約100人でした。私は、ポスター発表と、ショートトークのセッションで発表しました。招待演者による発表は、その分野の一流研究者が、最新データを交えて研究紹介をするため、とても興味深かったです。発表の内容はもちろんのこと、分かりやすいプレゼンテーションの行い方、質問に対する答え方など、様々な点が勉強になりました。また、セッションの内容も、分子レベルの話題から、地球規模の炭素循環まで含まれており、その幅広さに驚きました。そして、各セッションの後の討論の活発さにも驚かされました。

英語で発表することに関しては、十分に練習を重ねたため、あまり不安はありませんでした。ただ練習どおりにしゃべれば良いだけです。一番不安を感じていた点は、発表後の質疑応答です。しかも、今回は、万が一の時に助け舟を出してくれる指導教官がいません。自分の力で何とかしなければならぬのです。どのような質問が来るのか、質問が聞き取れなかったらどうしよう、質問に対して英語で答えられるだろうか、誤解を招くような答えをしてしまったらどうしようなど、とても不安でした。発表前に味わった不安と緊張は、間違いなく人生最大級でした。

ただ、不安を抱えているだけでは意味が無いので、前向きな対策も取ろうと考え、司会の方に、英語が苦手であることと、質疑応答で困ったときは助けて欲しいことを、事前に伝えました。すると、彼は、「オーケー心配するな。もし質問が聞き取れなかったら、私の方を見なさい。私が分かりやすく言い直してあげるから。」と言ってくれました。この言葉を聞いて、かなり安心しました。そして、発表は落ち着いてこなすことができ、ほぼ時間通りに終了しました。続く質疑応答では、自分でも信じられないくらいの集中力を発揮することができ、なんとか質問を理解し、答えることができました。中には聞き取れない質問もありましたが、その時には、司会者が助けてくれました。

今回の会議では、司会者の方を始め、学会参加者がフレンドリーかつ紳士的で、とても助かりました。私が英語を聞き取れないこと伝えると、ゆっくりと言い直してくれたり、表現を代えてくれたりしてくれたため、ポスター発表や、マンツーマンでの会話では、あまり英語に困りませんでした。ただし、各セッションの後に行われる集団討論では、皆早口になるため、理解できないことが多く、英語力の無さを痛感しました。そして、何よりも、この会議に参加して最も良かった点は、光合成炭素固定のエキスパート達から意見をもらえたことです。論文で目にする一流の研究者にポスターを見てもらい、意見をもらえた時には、とても感激しました。特に、一部の方からは、建設的な意見をたくさんいただき、そして励まされました。そのため、少し大げさかもしれませんが、この会議に参加したことは、今後の自分の研究と生き方に、大きなインパクトを与えたと思います。3年後に開かれる次のゴードン会議で、より良い発表ができるように、今後も研究と英語の練習をがんばっていこうと思います。

Communicated by Yoshihiro Shiraiwa, Received September 24, 2008.